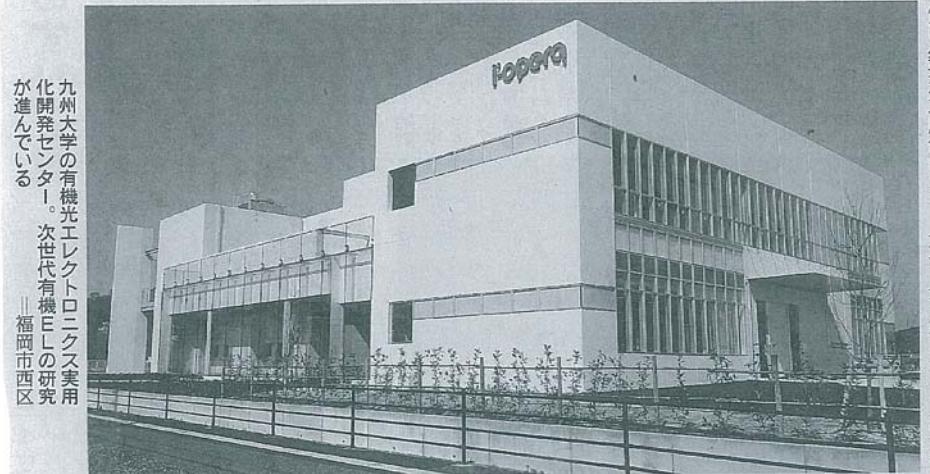


九州大 発光効率100%に成功

青色有機EL 次世代テレビなど応用期待



九州大学の有機光エレクトロニクス実用化開発センター。次世代有機ELの研究が進んでいる
福岡市西区

3/4掲
産経24

安達教授らの研究チーム

は50%止まりだったが、材料の分子構造を新たに組み立て、効率を高めた。

有機ELは、電圧をかけると光を発する素子で、画面や照明への応用が期待されている。

液晶に比べ、バックライトが不要なことから、省電力性能に優れ、より薄い画面を作ることができる。

現在、スマートフォンやテレビに使われている第2世代有機ELの商品化は、LG電子など韓国メーカーが先行し、日本メーカーが追いかける構図となっている。また、イリジウムなどレアメタル（希少金属）を使う上、米国企業が特許を

九州大の最先端有機光エレクトロニクス研究センター（福岡市）は、次世代テレビなどの画面として期待される発光材料「第3世代有機EL」のうち、青色の光について、電気を光に変える発光効率を100%まで高めることに成功したと発表した。今後、実用化に向けて耐久性を高める。3日、科学誌ネイチャーフォトニクス電子版に掲載された。

安達教授らは、既に企業と実験を進めており、1年で実用化のめどをつけたい」と語った。

今回の新技術によって三原色がそろい、商品化への道が大きく広がり、韓国企業への巻き返しが期待される。

持つため、商品価格を引き下げる事が難しい。

同センターはレアメタルを使わず炭素や水素などの有機化合物を素材に開発を進めてきた。平成23年に高効率の有機EL素子を開発し、青色の発光効率向上の研究を進めてきた。

安達氏は「既に企業と実験を進めており、1年で実用化のめどをつけたい」と語った。